

第 1 回 検討協議会での主な意見について

（「まちづくりの視点」に関して）

- 人口減少というのは、すごく大きな問題だと思うので、ホスピタリティの心を育て、地域を好きになってもらおうとする試みを教育に活かすことが重要だ。
- 函館に生まれ育った子どもたちに函館の良さを再認識させるためには、生徒が街の方に出て活動するような取組が必要。
- 魅力ある学校づくりのためには、地域の人達の意見を教育活動に取り入れていく必要がある。
- 函館の「食」については世界から認められていると実感したので、子どもたちの食育に力を入れていけたらよい。
- 「まちづくり」の視点を教育の中に植え付けるということは、コミュニティの持続性を確保する重要な鍵になる。

（「教育における多様性の尊重の視点」に関して）

- 多様性とは何か、よく考えていかなければならない。
- これから函館の街に他の国の人々やいろんな文化が入ってきた時に、それをちゃんと受け入れて我が物にしていく、そういう「多様性」は発展性の鍵になる。

（「縦の接続の視点」に関して）

- 生涯教育という点で幼稚園入園前の段階からの話も行う必要があると感じており、小さなお子さんを抱えた家庭の現状など、これからの函館の未来を語る上では必要だ。
- 学びの基盤ができあがる幼児教育またはその前後に投資をしなければならない時期だ。
- 函館学は、自分の地域という意識を持たせるために、小学校の必修科目になってもいい。

- まちづくりに関する授業における地域課題・問題解決を通じて、他の地域から来ている参加学生が、函館で就職したいと言い出した。
- 幼小中高大、教育と社会が繋がって、地域で育った人材が地域で世代交代していく。人材のサイクルというか、世代交代を作っていくルートをつけていかなければならない。

(その他)

- 会社の経営者の方々は人手不足だと言うが、函館出身の学生は地元でどういった求職が分からず、他都市に出て行ってしまう。そういった情報をどうやって行き渡らせるか。
- 函館の高等教育機関には、医療系や芸術系の大学がない。特に医療系については、看護師になるのでも大学へ進学したいという生徒が多い。
- 函館市の人口の適正規模がどのくらいなのか。どの程度の規模の人口が良くて、どういう割合の年齢構成や職業の割合が函館に合っているのか。
- 最近、奨学金を返済できなくて困っている子どもたちがいて、日本は非常に教育に金を惜しんでいると感じられる。
- この地域の高校生がどれだけこの地域の高等教育機関の恩恵を受けているのか、そのリアルをつかむ必要があるのではないか。